

[テンダー福祉学院] 介護職員初任者研修

科目別シラバス

1. 職務の理解（6時間）

（1）到達目標・評価の基準

ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人を支える介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うか、介護の分野に従事する具体的なイメージを持ってもらい、その後の学習の動機づけを図ることを目的とする。
修 了 時 の 評 価 ポ イ ン ト	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職が働く現場や仕事内容をイメージし理解できる。 ・130時間の講義の構成と10科目相互の関連性の全体像を理解できる。 ・介護職のキャリアパスの概略を理解できる。

（2）内容例

指 導 の 視 点	<ul style="list-style-type: none"> ・国の背策の動向を知り、介護職が働く現場や仕事内容、倫理をできる限り具体的に理解できるようにする。 ・研修課程全体（130時間）の構成と各研修科目（10科目）相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるような素地の形成を促す。 ・職業人としての倫理の重要性、自己管理の重要性を理解できるようにする。 ・視聴覚教材等を用い、介護職が働く現場の様子を出来る限り具体的にできるようにする。 ・介護職のキャリアパスの概略を理解できるようにする。
内 容	<p>1. 職務の理解</p> <p>（1）介護職の仕事と働く現場の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護の社会化と尊厳の保持 ○キャリアパスと介護職員初任者研修 ○OJT・OFF-JTを通じた学習の継続 ○居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ○居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ （視聴覚教材の活用、現場職員の体験談、サービス事業所における受講者の選択による実習・見学等） ○ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携

2. 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）

（1）到達目標・評価の基準

ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・「人間」の理解を基礎とし、人間として尊厳の保持と自立・自立した生活を支える必要性について理解し、介護の現場における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。さらに、利用者一人ひとりがその人らしい生活が継続できるよう、人間の尊厳、社会参加と自立の理念を理解し、介護・支援する場面で対応できる倫理観と実践力を養うことを目的とする。 ・ノーマライゼーションの意義を理解する。 ・予防介護という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動等を理解する。 ・尊厳の保持に関連し、介護保険上、どのような仕組みや現実があるか理解する。
修 了 時 の 評 価 ポ イ ン ト	<ul style="list-style-type: none"> ・「人間の尊厳」を理解することが、介護実践における人間理解の基本原則であることが理解できる。 ・人間としての尊厳の保持と自立した生活を支える必要性について理解できる。 ・人間が主体的に自己の生活を営もうとすることが自立であると捉えることができる。 ・介護実践において尊厳を保持するための配慮ができる。 ・介護予防活動の目標を実践に生かすことができるよう、その内容について理解できる。 ・介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れ概説できる。 ・虐待の定義、身体拘束、及びサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。

（2）内容例

指 導 の 視 点	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援による高齢者の尊厳の保持が介護保険制度の目的であることを理解できるようにする。 ・ノーマライゼーションの意義を理解できるようにする。 ・尊厳の保持に関連し、介護保険上どのような仕組みや規定があるか理解できるようにする。 ・人間の尊厳と自立が基本的な人権であることを理解する具体的な事例を複数用意し、利用者及びその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気付きを促し、自分の問題として理解できるようにする。 ・具体的な事例を複数示し、介護予防活動の目標を実践にできるように、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアへの理解ができるようにする。 ・介護・福祉サービスを提供するにあたって基本視点を学び、やってはいけない行動を理解し、実践に生かせるようにする。 ・虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対して理解できるようにする。 ・虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待に対して理解できるようにする。
内 容	<p>1. 人権と尊厳を支える介護</p> <p>（1）人権と尊厳の保持</p> <p>○人間の尊厳と自立 ○ノーマライゼーションの意義 ○個人の尊厳と法制度（幸福追求権・プライバシーの保護と守秘義務</p> <p>（2）人権擁護の基本視点</p> <p>○高齢者虐待（高齢者虐待防止法・身体拘束禁止） ○利用者の尊厳の保持（成年後見制度・日常</p>

生活自立支援事業・身体拘束ゼロ)

2・介護における自立支援

(1) 介護の基本視点

○介護サービスの社会的役割○福祉理念と介護サービスの意義○サービス提供の基本視点(ノーマライゼーション・ICF・QOL・利用者本位と自立支援)

(2) 介護予防

○あるべき主体的な生活○要介護状態の原因疾患について○介護予防とは○介護予防活動の目標○介護予防活動を支える5つの考え方について(予防・セルフケア・ケアマネジメント・ヘルスプロモーション・ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ)

3. 介護の基本（6時間）

（1）到達目標・評価の基準

ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・「介護」とは何か。介護が必要な人とは何かを理解する。 ・専門職が行う介護の基本視点を学び、科学的根拠に基づく介護の実践について理解する。 ・介護の歴史を踏まえて現状把握、新しい法改正下の超高齢化社会を担う介護職の役割と義務について理解する ・日常生活全体から介護や介護を受ける人をとらえる視点を養う。 ・「介護」を実践するうえで基盤となる自立支援の考え方、個別性を理解し、その人を支えているという視点から支援を捉える事ができる。 ・尊厳の保持や自立支援といった理論やコミュニケーションの技能が統合されたものが「介護」であり、その「介護」を実践できる力を身につける。 ・施設・居宅という介護環境の特性を理解し、多職種連携のあり方、それぞれの特性を理解する。 ・介護の仕事は知識・技術だけでなく高い倫理性が必要であることを理解する。 ・利用者・家族にかかわる際の留意点について理解する。 ・介護サービスを提供していくうえで必要な安全確保を理解し、介護事故を予防するために必要な要因・原因を考える。 ・介護現場に起こるリスクを単に危機管理に留まらず「介護の質の向上」へ展開できる基礎的能力をつける。 ・介護の質に影響する介護職員の健康管理について理解する。
修 了 時 の 評 価 ポ イ ン ト	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の目指す基本的なものは何か、介護の専門性について理解できる。 ・介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。 ・介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について列挙できる。 ・介護を必要とする人の理解を生活面、健康面、ライフサイクル面から理解し、それらの人とどう向き合うか考える。 ・生活支援の場での出会う典型的な事故や感染など、事例をもとにリスクマネジメント・セーフティマネジメントを列挙できる。 ・介護従事者が陥りやすい健康障害とその予防策について留意点を列挙できる。 ・労働者としての介護職員の立場を理解する。 ・介護職が実施できる医療的ケアと実施できない医行為を列挙できる。

（2）内容例

指 導 の 視 点	<ul style="list-style-type: none"> ・施設と居宅という、介護環境の特性を理解し、多職種連携のあり方、それぞれの特性を列挙できるようにする。 ・地域包括ケアの役割と機能を列挙できるようにする。 ・専門職が行う介護の基本視点を学び、科学的根拠に基づく介護の実践について理解できるようにする。 ・互いの専門職としての能力を活用して効果的なサービスを提供できるよう、多職種連携における介護職の役割を理解できるようにする。 ・可能な限り具体例を示す等の工夫を行い、介護職に求められる専門性に対する理解がきるようにする。 ・介護の仕事は公共性が高いものであることを理解できるようにする。 ・介護の仕事は知識・技術だけでなく高い倫理性が必要であることを理解する。
-----------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者・家族に対する関わり方について理解し、関わる際の留意点について理解できるようにする。 ・介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解し、医療職と連携することが重要であることを理解できるようにする。 ・介護事故を予防するために必要な要因・原因を列挙できるようにする。 ・事故発生時の対応と報告の仕方を理解できるようにする。 ・情報共有の大切さを理解できるようにする。 ・感染症について理解できるようにする。 ・介護職員の健康管理の留意点とストレスマネジメントについて列挙できるようにする。
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.介護職の役割、専門性とは職種との連携 <ol style="list-style-type: none"> (1) 介護環境と特徴の理解 <ul style="list-style-type: none"> ○介護環境の理解（居宅サービス・施設サービス・地域密着型サービス）○地域包括ケアシステムの役割と機能 (2) 介護の専門性 <ul style="list-style-type: none"> ○専門職としての介護の視点○チームアプローチの実際 (3) 介護にかかわる職種 <ul style="list-style-type: none"> ○利用者を取り巻く多職種連携○多職種連携における役割分担 2.介護職の職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 介護サービスの公共性と職業倫理 <ul style="list-style-type: none"> ○介護サービスの公共性（契約制度・法の理念）○介護職員としての倫理の必要性・社会的責任 (2) 利用者・家族に対する責任 <ul style="list-style-type: none"> ○利用者・家族との関係（利用者保護・プライバシーの保護）○利用者の自己決定権の尊重 (3) 社会に対する責任 <ul style="list-style-type: none"> ○倫理と規範○規定されている倫理（信用失墜行為の禁止・守秘義務・身体拘束禁止・高齢者虐待防止法）○専門職種と倫理規定○日本介護福祉士会倫理綱領 3.介護における安全の確保とリスクマネジメント <ol style="list-style-type: none"> (1) 介護における安全確保 <ul style="list-style-type: none"> ○サービス提供と安全管理体制○事故の分類と実態 (2) 事故予防安全対策 <ul style="list-style-type: none"> ○リスクマネジメント○事故発生時の対応 (3) 感染対策のための基本的知識 <ul style="list-style-type: none"> ○感染の原因と感染経路○感染源の排除、感染経路の遮断○感染症の治療○スタンダード・ポリシー（標準予防策）○手洗い○手袋○うがい○マスク、エプロン○洗浄と消毒○環境整備 ○入浴について○隔離について 4. 介護職の安全 <ol style="list-style-type: none"> (1) 健康管理とストレスマネジメント <ul style="list-style-type: none"> ○介護職の健康管理○身体的疲労（ストレスマネジメント） (2) 介護職員の労働の権利と労働法 <ul style="list-style-type: none"> ○権利と労働法○介護職員と労働法○ホームヘルパーの労働時間として認められる業務

4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）

（1）到達目標・評価の基準

ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度や障害者支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを理解する。
修 了 時 の 評 価 ポ イ ン ト	<ul style="list-style-type: none"> ・生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。 ・介護保険制度や障害者自立支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙できる。 例：税の財源の半分であること、利用者負担割合。 ・ケアマネジメントの意義について理解でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。 ・高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について列挙できる。 ・医行為の考え方、一定の要件のもとに、介護職が行う医行為などについて理解できる。 ・リハビリテーションの理念、目的および高齢者のリハビリテーション・地域リハビリテーションについて列挙できるようにする。 ・脳卒中モデルの急性期、回復期、維持期のリハビリテーションの流れについて列挙できる。 ・個人の権利を守る制度（個人情報保護法・成年後見制度・日常生活支援事業）について列挙できる。

（2）内容例

指 導 の 視 点	<ul style="list-style-type: none"> ・「介護の社会化」がなぜ必要だったのか、介護保険制度創設の理由を理解できるようにする。 ・介護保険制度・障害者自立支援制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解できるようにする。 ・予防重視型システムへの転換、地域包括ケアシステムの推進といった介護保険制度の新しい方向性を理解できるようにする。 ・保険者、被保険者、受給権者、保険給付などの介護保険制度の基本的な仕組みを理解できるようにする。 ・居宅サービス、居宅介護支援、施設サービス、地域密着型サービスという介護給付の種類ならびに介護予防サービス、介護予防支援、地域密着型介護予防サービスという予防給付の種類を理解できるようにする。 ・認定の申請から認定調査、介護認定調査会による審査判定、結果の通知にいたる手続きが理解できるようにする。 ・地域支援事業と地域包括支援センターについて理解できるようにする。 ・利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障害者自立支援制度、その他の制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスを理解できるようにする。 ・介護職が実施できない医行為と実施できる非医行為について理解できるようにする。 ・医行為への介護職の対応について学習する。 ・医療・看護の役割について学習し、連携（チームケア）の必要性について理解できるようにする。 ・リハビリテーションの理念、目的および高齢者のリハビリテーション・地域リハビリテーションについて理解できるようにする。 ・事例を通して、脳卒中モデルの急性期、回復期、維持期のリハビリテーションの流れについて列挙で
-----------------------	--

	<p>きるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者の自立と社会参加の意義と役割をよく理解し、支援に生かせるようにする。 ・我が国の障害者福祉制度の歴史を概観し、障害者福祉制度の理念について理解できるようにする。 ・障害者自立支援法の目的および概要について理解できるようにする。 ・個人情報保護法を取り上げ、介護職が取り扱う利用者の個人情報の保護と活用のルールについて列挙できるようにする。 ・成年後見制度を取り上げ、判断能力が衰えた人の権利擁護である法定後見、判断能力が衰えた場合に備えた任意後見について列挙できるようにする。 ・判断能力が不十分な人の生活を支援する日常生活自立支援事業について列挙できるようにする。
内容	<p>1.介護保険制度</p> <p>(1) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護保険制度創設の社会的背景○介護保険制度創設までの経緯（社会保険方式・利用者本位） ○介護保険制度施行後の状況○介護保険制度の目的等（自立支援と尊厳の保持・地域包括ケア） <p>(2) 介護保険制度の仕組みの基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保険制度としての基本的仕組み（社会保険方式・第1号被保険者・第2号被保険者）○保険給付とその種類○要介護・要支援認定○利用者負担（1割負担が原則）○地域支援事業等（地域包括支援センター） <p>(3) 制度を支える組織・団体の機能と役割、財源</p> <ul style="list-style-type: none"> ○制度を支える組織・団体—全体の姿—○サービス提供事業（都道府県知事による指定・市町村長による指定）○介護支援専門員○介護サービス情報の公表○国民健康保険団体連合会その他の組織○介護保険事業計画○介護保険財源 <p>2.医療との連携とリハビリテーション</p> <p>(1) 医行為と非医行為</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医行為と非行為の範囲○医行為への介護者の対応(喀痰吸引・経管栄養) <p>(2) 医療・看護職とのチームケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医療・看護の役割○医療系職種間の連携の理解○看護と介護の連携 <p>(3) リハビリテーション職種との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リハビリテーションの理念と目的○リハビリテーション医療の過程（急性期・回復期・維持期） <p>3.障害者自立支援制度およびその他制度</p> <p>(1) 障害者福祉制度の理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ○障害の自立と社会参加（ノーマライゼーション・ICF・エンパワーメント）○法制度の理念（障害者自立支援法・障害者基本法） <p>(2) 障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ○障害者自立支援法の概要（自立支援給付・地域生活支援事業）○障害者自立支援法の仕組み <p>(3) 個人の権利を守る制度の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個人情報保護法○成年後見制度○日常生活自立支援事業

5. 介護におけるコミュニケーション技術(6時間)

(1) 到達目標・評価の基準

ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・介護者と利用者の対人援助を軸として展開される介護実践のために必要な人間の理解や他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を養う。 ・高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションをとることが専門職に求められていることを認識させる。 ・介護を必要とする者の理解や援助的コミュニケーションについて理解する。また、利用者や利用者家族、あるいは他職種協働する際のコミュニケーション能力を身につける。 ・十分な人間理解を基礎に、円滑な人間関係の形成及びコミュニケーションの基礎を理解する。 ・介護実践においてなぜ記録が重要か、その意義と目的を理解できるようにする。また前提である観察と情報収集の重要性と心得を学び、記録の意義と目的、要領を理解する。
修 了 時 の 評 価 ポ イ ン ト	<ul style="list-style-type: none"> ・介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について理解できる。 ・共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。 ・家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職として持つべき視点を列挙できる。 ・介護の場面に即応したコミュニケーション技法が習得できる。 ・言語・視覚・聴覚障害を持つ利用者の状態を把握理解し、それに応じたコミュニケーション技法の重要性を理解し、介護職として持つべき視点を列挙できる。 ・失語症・構音障害者とのコミュニケーションの方法と留意点について列挙できる。 ・認知症の人とのコミュニケーションの方法と留意点について列挙できる。 ・介護におけるチームコミュニケーションに必要な記録・報告等の技術を獲得する。 ・チームにおけるコミュニケーションの有効性、重要性について列挙できる。 ・介護実践においてなぜ記録が重要か、その意義と目的を理解できるようにする。また前提である観察と情報収集の重要性と心得を学び、記録の意義と目的、要領を理解できる。

(2) 内容例

指 導 の 視 点	<ul style="list-style-type: none"> ・介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について理解できるようにする。 ・円滑なコミュニケーションのための共感と利用者理解、自己覚知および言葉遣いについて理解できるようにする。 ・高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることを理解できるようにする。 ・共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーションを理解できるようにする。 ・家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と、介護における相談援助技術の重要性を理解できるようにする。 ・言語・視覚・聴覚障害者とのコミュニケーションの方法と留意点について理解できるようにする。 ・失語症・構音障害者とのコミュニケーションの方法と留意点について理解できるようにする。 ・認知症の人とのコミュニケーションの方法と留意点について理解できるようにする。 ・利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを理解できるようにする。 ・チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解できるようにする。 ・チームアプローチの効果と意義について理解できるようにする。 ・記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることを理解できるようにする。 ・介護実践においてなぜ記録が重要か、その意義と目的を理解できるようにする。また前提である観察
-----------------------	---

	と情報収集の重要性と心得を学び、記録の意義と目的、要領を理解できるようにする
内容	<p>1.介護におけるコミュニケーション</p> <p>(1) 介護におけるコミュニケーション技法</p> <p>○生活場面におけるコミュニケーション（自己覚知・傾聴・共感）○対人援助のコミュニケーション（言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション）</p> <p>(2) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際</p> <p>○利用者の心理とコミュニケーション○家族とのコミュニケーション（レスパイトケア）</p> <p>(3) 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際</p> <p>○言語・視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション○失語症・構音障害者とのコミュニケーション（運動性失語・感覚性失語・運動性構音障害・器質性構音障害・機能的構音障害）○認知症の人とのコミュニケーション</p> <p>2.介護におけるチームのコミュニケーション</p> <p>(1) チームアプローチ —多職種間連携—</p> <p>○チームアプローチとチーム連携（IPW・同業種・異業種・多職種）○チームアプローチの形態（クライアントチーム・パーマネントチーム）</p> <p>(2) 観察、記録、情報伝達</p> <p>○介護職と記録（情報収集・個人情報保護）○報告・連絡・相談</p> <p>(3) コミュニケーションをうながす環境</p> <p>○共感的理解とコミュニケーション（言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション・肯定的コミュニケーション・否定的コミュニケーション）○言葉遣いと話し方</p>

6. 老化の理解(6時間)

(1) 到達目標・評価の基準

ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・発達の観点から加齢・老化を理解し、老化に関する心理や身体的機能の変化の特徴に関する基礎的知識を学び高齢者を理解する。
修 了 時 の 評 価 ポ イ ン ト	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。 例：退職による社会的立場の喪失感、運動機能の低下による無力感や羞恥心、感覚機能の低下によるストレスや疎外感、知的機能低下による意欲の低下等。 ・高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。 例：脳梗塞の場合、突発的に症状が起こり、急速に意識障害、片麻痺、半側感覚障害等を生じる等 ・健康の意義について理解し、個人と家族のライフサイクルについて理解する。 ・高齢者の意味について理解し、からだにおこる加齢変化について列挙できる。 ・高齢者の身体的・精神的機能の変化と病気との関連、日常生活への影響について理解し、介護における留意点を理解する。 ・さまざまな症状がどのような病気からおこるのかについて理解し、どのような場合に医師・看護師に相談すべきかについて理解する。

(2) 内容例

指 導 の 視 点	<ul style="list-style-type: none"> ・人間は外の世界と五感を使ってつながっている。それらが彼に伴ってどのように変化していくのか、その基本を列挙できるようにする。 ・加齢に伴う五感の変化が日常生活に与える影響について理解し、ケアを行っていくうえでどのような点に気を付けるべきか理解できるようにする。 ・健康の意義について理解し、個人と家族のライフサイクルについて理解できるようにする。 ・高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、日常生活への影響、その対応における留意点を説明し、介護において生理的側面の知識を身につけることの必要性を理解できるようにする。 ・さまざまな症状がどのような病気からおこるのかについて理解し、どのような場合に医師・看護師に相談すべきかについて理解できるようにする。 ・高齢者に多い疾患について理解し、介護における留意点について理解できるようにする。
内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1.老化に伴うこころとからだの変化 <ol style="list-style-type: none"> (1) 老年期の発達と心の変化 <ul style="list-style-type: none"> ○感覚・知覚の変化○注意力の変化と反応の変化○記憶の変化○知能の変化○感情の変化○性格の変化 (2) 老化に伴うからだの変化 <ul style="list-style-type: none"> ○健康とライフサイクル(健康・QOL) ○加齢の生理学 2.高齢者と健康 <ol style="list-style-type: none"> (1) 高齢者に多い病気の基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> ○身体的・精神的機能の変化と病気、日常生活への影響○おもな症状とチェックポイント 3.高齢者に多い病気とその日常生活の留意点

	<p>○生活習慣病とメタボリックシンドローム○高齢者と糖尿病○循環器の病気○呼吸器の病気○消化器の病気○代謝・内分泌の病気○脳神経系の病気○運動器の病気○アレルギー・膠原病・免疫の病気○血液の病気○腎臓・泌尿器の病気○こころの病気○眼の病気○耳・鼻・喉の病気○皮膚の病気○歯・口腔・顎の病気○感染による病気○介護保険特定疾病</p>
--	--

7. 認知症の理解（6時間）

（1）到達目標・評価の基準

ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、その必然性、必要性に気づき、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を理解する。 ・認知症のある人を取り巻く社会的環境を知るとともに、認知症ケアの実際と今後の課題について理解する。
修 了 時 の 評 価 ポ イ ン ト	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。 ・「できること」に着目したケア、その人らしさを生かすケアの形としてパーソン・センタード・ケアの考え方を理解する。 ・健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。 ・認知症の原因となる疾患の種類について理解し、アルツハイマー型認知症と血管性認知症の違いを理解する。 ・レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症、そのほかの認知症について列挙できる。 ・認知症の中核症状と行動・心理症状（B P S D）等の基本的特性、及びそれに影響する要因が列挙できる。 ・代表的な心理症状について理解し、薬物療法について理解する。 ・認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、及び介護の原則について理解できる。また、同様に、若年性認知症についても列挙できる。 ・認知症の利用者の健康管理の重要性和留意点、廃用症候群予防について概説できる。 ・問題とみなされがちな行動・心理症状は認知症という病気に伴う病気であることを理解し、対応方法を理解できる。 ・行動・心理症状が誘発される介護職の不適切なケアを学び、適切なケアと何か理解できるようにする。 ・認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について列挙できる。 例：生活習慣や生活様式の継続、なじみの関係やなじみの空間、プライバシーの確保と団らんの場の確保等、地域を含めて生活環境とすること ・認知症の利用者とのコミュニケーション(言語、非言語)の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方を概説する。 ・家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて列挙できる

（2）内容例

指 導 の 視 点	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できるようにする。 ・「できること」に着目したケア、その人らしさを生かすケアの形としてパーソン・センタード・ケアの考え方を理解する。 ・認知症の定義、診断基準など、認知症についての知識を身につける。 ・加齢に伴う物忘れと認知症の違いを理解し、認知症の初期症状、診断基準について列挙できるようにする。 ・認知症の原因となる疾患の種類について理解し、アルツハイマー型認知症と血管性認知症の違いを理解できるようにする。 ・レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症、そのほかの認知症について列挙できるようにする。 ・認知症の中核症状と行動・心理症状（B P S D）等の基本的特性、及びそれに影響する要因が列挙でき、対応方法を学ぶ。
-----------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な心理症状について理解し、薬物療法についても理解できるようにする。 ・認知症高齢者の増加に伴う介護の困難さを予測し、病気であるということを理解し、認知症の利用者に関する知識を習得できるようにする。 ・行動・心理症状が誘発される介護職の不適切なケアを学び、適切なケアとは何かを理解させる。 ・具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における具体的な対応について理解できるようにする。 ・認知症高齢者を介護する家族の負担感やその要因を理解できるようにする。 ・家族介護が在宅でできることと社会サービスの有効利用について理解できるようにする。 ・家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて列挙できるようにする。
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症を取り巻く状況 <ol style="list-style-type: none"> (1) 認知症ケアの理念 <ul style="list-style-type: none"> ○認知症介護の基本原則○最新の認知症ケア（パーソン・センタード・ケア） 2. 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 認知症の基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> ○認知症とはなにか○物忘れと認知症の違い○認知症の初期症状○認知症の診察と診断 (2) 認知症の原因疾患 <ul style="list-style-type: none"> ○認知症の種類と原因○アルツハイマー型認知症○血管性認知症○レビー小体型認知症○前頭側頭型認知症○その他の認知症 (3) 中核症状と行動・心理症状 <ul style="list-style-type: none"> ○中核症状○行動・心理症状○中核症状の薬物療法○行動・心理症状の薬物療法 3. 認知症に伴うこころとかがだの変化と日常生活 <ol style="list-style-type: none"> (1) 認知症に伴うこころとからだの変化 <ul style="list-style-type: none"> ○行動・心理症状の具体的対応例 (2) 認知症の人への対応 <ul style="list-style-type: none"> ○日常生活支援の基本的対応○環境整備と基本的対応○心理学的援助方法論 4. 家族への支援 <ol style="list-style-type: none"> (1) 認知症家族介護の現状の理解 <ul style="list-style-type: none"> ○家族介護者の介護負担（虐待）○認知症のケアとは○家族介護者のできること (2) 認知症をもつ人の声、そして家族の声 <ul style="list-style-type: none"> ○「認知症と共に生きる私」の声を心を澄ませて聞いてください・・・○当事者や介護家族の思いに見る諸相○認知症との出会い、その支援について○介護者をめぐる3つの修羅場○家族の願い

8. 障害の理解(3時間)

(1) 到達目標・評価の基準

ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の概念と I C F、障害者福祉の基本的な考えについて理解し、介護における基本的な考え方について理解する。 ・障害のある人の心理や身体的機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を理解する。
修 了 時 の 評 価 ポ イ ン ト	<ul style="list-style-type: none"> ・障害の概念と I C Fについて概説し、各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。 ・障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。 ・ノーマライゼーションの理念を理解する。 ・リハビリテーションの概念を理解する。 ・インクルージョンの理念を理解する。 ・身体障害・知的障害・精神障害・言語・聴覚障害・視覚障害・発達障害・高次機能障害・内部障害・難病・の種類と原因の特性と介護上の留意点を列挙できる。 ・家族の心理の一般的過程、家族の負担とその要因、家族支援の概要を理解する。 ・介護負担とその要因、必要性を理解した家族支援と Q O L の向上を理解する。

(2) 内容例

指 導 の 視 点	<ul style="list-style-type: none"> ・介護において障害の概念と I C F を理解できるようにする。 ・障害の需要のプロセスを理解し、介護職の役割を理解できるようにする。 ・ノーマライゼーションの理念を理解できるようにする。 ・リハビリテーションの概念を理解できるようにする。 ・インクルージョンの理念を理解できるようにする。 ・身体障害・知的障害・精神障害・言語・聴覚障害・視覚障害・発達障害・高次機能障害・内部障害・難病・の種類と原因の特性と介護上の留意点を理解できるようにする。 ・家族の心理の一般的過程、家族の負担とその要因、家族支援の概要を理解できるようにする。 ・介護負担とその要因、必要性を理解した家族支援と Q O L の向上を理解できるようにする。
内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1.障害の基本的理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 障害の概念と I C F <ul style="list-style-type: none"> ○障害とは○障害の構造 (I C F の考え方・ I C F ・ I C I D H) ○障害の受容 (2) 障害者福祉の基本的理念 <ul style="list-style-type: none"> ○ノーマライゼーションとは○リハビリテーションとは○インクルージョンとは 2.障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 <ol style="list-style-type: none"> (1) 身体障害 <ul style="list-style-type: none"> ○身体障害者の生活上の困難 (脳性麻痺・肢体不自由) ○身体障害者の心理と行動特徴○身体障害者の支援 (2) 知的障害 <ul style="list-style-type: none"> ○知的障害者の生活上の困難○知的障害者の心理と行動特徴○知的障害者の支援 (3) 精神障害 <ul style="list-style-type: none"> ○統合失調症○気分障害○ストレス関連障害 (神経系) ○人格障害 (4) 言語・聴覚障害

○言語障害者の生活上の困難（構音障害・吃音・失語症）○言語障害者の心理と行動特徴○聴覚障害者の生活上の困難○聴覚障害者の心理と行動特徴

(5) 視覚障害

○視覚障害者の生活上の困難○視覚障害者の心理と行動特徴

(6) 発達障害

○発達障害者の生活上の困難（広汎性発達障害・自閉症・アスペルガー症候群・高機能自閉症・注意欠損多動障害・学習障害）○発達障害者の心理と行動特徴

(7) 高次脳機能障害

○高次脳機能障害とその原因○高次脳機能障害と介護のポイント（失行症・構成障害・失認症・失語症・注意障害・遂行機能障害・情緒の障害）

(8) 内部障害

○内部障害とは（心臓機能障害・呼吸器機能障害・腎臓機能障害・膀胱・直腸機能障害）○内部障害と介護のポイント○ストーマケア

(9) 難病

○難病とはどのような病気か○難病の特徴○おもな難病○難病患者の生活上の障害○難病患者の心理の実際○難病の治療について

3. 家族の心理、かかわり支援の理解

(1) 家族への支援

○障害のある人の家族の負担と支援○障害の受容の理解

9. こころとからだのしくみと生活支援技術

(1) 到達目標・評価の基準

ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・生活支援技術における生活支援について全人間的に理解する。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、利用者が自らの生き方を主体的に実現できるよう、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得、社会参加を理解する。 ・他科目で学習した知識や技術を総合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。介護過程の意義・目的・内容・展開方法について理解する。 ・様々な事例における介護過程の展開を行い、利用者に適した介護を考える。 ・他職種の役割や機能を踏まえて、介護場面でのチームアプローチを理解する。
修 了 時 の 評 価 ポ イ ン ト	<ul style="list-style-type: none"> ・人の記憶の構造や意欲等の支援と結びつけて理解できる。 ・人体の構造や機能を理解し、何故行動が起こるのか理解できる。 ・利用者の生活の様子をイメージでき、要介護者等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における利用者の生活について理解できる。 ・要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点、その根拠等）について理解し、生活の中の介護予防、及び介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法が理解できる。 ・利用者の身体状況に合わせた介護、環境整備について理解できる。 ・家事援助の機能と基本原則について理解できる。 ・装うことや整容の意義について理解し、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。 ・体位交換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やさまざまな車いす、杖などの基本的使用方法を理解し、体位交換と移動・移乗に関するからだのしくみを理解し、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が理解でき、食事に関するからだの仕組みを理解し、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を理解し、入浴に関するからだの仕組みを理解し、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や排泄に関連した用具を理解し、排泄に関するからだの仕組みを理解し、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や睡眠に関連した用具を理解し、睡眠に関するからだの仕組みを理解し、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・ターミナルケアの考え方、対応の仕方・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携（ボランティアを含む）について理解できる。

(2) 内容例

指 導 の 視	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりに適切な介護を行うための基本的な考え方を理解し、根拠に基づく介護の大切さを理解できるようにする。 ・介護保険制度下の介護サービスについて理解できるようにする。 ・加齢に伴って生じてくる心の変化について、日常生活への影響と高齢者の心理について列挙できるようにする。
------------------	--

<p>点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢期に生じやすい心理・社会的環境の変化について理解し、それに応じた高齢期のパーソナリティーの変化や適応の仕方について理解できるようにする。 ・介護の専門職として必要な身体各部の名称、はたらきを理解できるようにする。 ・基本動作における実際的な動きを理解し、ボディメカニクスの介護への活用を理解できるようにする。 ・健康チェックの意義について理解できるようにする。 ・脈拍・血圧・体温・呼吸の観察のポイントを理解できるようにする。 ・生活支援に関して全人間的に理解するために事例を通した学びの機会を設ける理解できるようにする。 ・生活における家事支援の必要性について理解できるようにする。 ・家事支援は、利用者の自立とQOLの向上に向けた援助であることを理解できるようにする。 ・家事支援は私的な手伝いではなく、制度に基づく自立支援であることを理解できるようにする。 ・住居のあり方とおして、個人のプライバシーや地域との交流を学び、障害者や高齢者にとって快適な住居整備について理解できるようにする。 ・福祉用具の活用に関する基本的考えを理解し、利用方法を列挙できるようにする。 ・演習で介助者、利用者の体験をすることから、生活支援技術の意味を理解できるようにする。 ・身体の清潔を維持することの意味を理解し、清潔介護のポイントと手順を理解できるようにする。 ・口腔ケアの意義を理解し、口腔ケアの基本となる口腔や歯についての知識を学ぶ。 ・口腔の清潔保持や方法や口腔体操について学ぶ。 ・体位と姿勢の持つ意味を理解し、体位と姿勢に関して介護が目指すことを理解できるようにする。 ・衣類の着脱のもつ意味を理解し、自立するための観察と介護のポイントを学ぶ。 ・安全で安楽な移乗の介護を理解し、実践に生かせるようにする。 ・車椅子の機能と構造、種類と特徴を知り、安全で安楽な移動介助を学ぶ。 ・人にとっての食事の持つ意味を理解し、咀嚼、嚥下の仕組みを知り、食事の援助方法を理解できるようにする。 ・入浴のもつ意味や個別性、および皮膚の生理的機能の皮膚の汚れについて理解し、清潔保持のための安全な援助方法を学ぶ。 ・人にとって排泄のもつ意味を理解し、排泄の原則を学び、排泄行動が自立できるための援助方法を学ぶ。 ・食事・排泄・清潔・着脱・移動等の介護技術について理解し、技術を習得できるようにする。 ・睡眠の意味と睡眠のリズムや種類、生理的变化を理解し、安眠の支援につなげていけるようにする。 ・寝具を整えることの意味について理解し、介護のポイントについて学ぶ。 ・緊急時の対応を理解するとともに、在宅ターミナルケアや施設での看取りについて考え、理解できるようにする。 ・介護過程の意義・目的、介護過程での各段階での内容について理解できるようにする。 ・事例展開を通してチームアプローチの方法や必要性を理解できるようにする。
	<p>< I.基本知識の学習・・・10～13時間程度 ></p> <p>1.介護の基本的な考え方</p> <p> (1) 介護の基本的な考え方</p> <p> ○理論の法的根拠に基づく介護○介護保険制度下の介護サービス</p> <p>2.介護に関するところとのしくみの基礎的理解</p> <p> (1) 高齢者の心理</p> <p> ○加齢に伴う変化とその心理○高齢期のパーソナリティーと適応</p>

- (2) 自己実現と生きがいづくり
 - 高齢期の喪失体験○自己実現と生きがい○生きがいとは何か○生きがいづくり支援
- 3.介護に関するからだのしくみの基礎的理解
 - (1) 人体の名称とはたらき
 - 人体の各部の名称○骨格・関節・筋のはたらき
 - (2) 運動動作に関する基礎知識
 - 身体の動きの基本（基本動作）○ボディメカニクスの原則と介護への活用
 - (3) 神経系に関するからだのしくみ
 - 中枢神経系○末梢神経系
 - (4) バイタルチェック
 - 脈拍・心拍○血圧○体温○呼吸
- <Ⅱ.生活支援技術の学習・・・50～55時間程度>
- 4.生活と家事
 - (1) 家事支援の基本原則
 - 家事支援の必要性と目的○信頼関係の構築と秘密保持○利用者に合わせた生活
 - (2) 家事支援の介護技術
 - 調理○掃除○洗濯○衣類の補修
- 5.快適な居住環境整備と介護
 - (1) 住環境整備
 - 住居の役割と機能○快適な環境づくりと安全○室内整備と清潔
 - (2) 福祉用具の活用
 - 福祉用具の活用にあたって○福祉用具とその使用方法
- 6.整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護
 - (1) 整容に関する基礎知識
 - 整容の意味○整容行動の仕組
 - (2) 整容の支援技術
 - 身体の清潔の介護○身だしなみ
 - (3) 口腔ケアの支援技術
 - 口腔ケアの意義○口腔の仕組みとはたらき○口腔ケアの基本○口腔ケアの実際
- 7.移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護
 - (1) 体位・姿勢の介護
 - 体位・姿勢のもつ意味○体位・姿勢介護○褥瘡の予防
 - (2) 衣類の着脱の介護
 - 衣類の着脱のもつ意味○衣類の着脱介護
 - (3) 移乗の介護
 - 移乗のもつ意味○移乗の介護
 - (4) 車いすでの移動の介護
 - 車いす移動のもつ意味○車いす移動の介護
 - (5) 外出の介護
 - 外出のもつ意味○外出の介護○肢体不自由者の歩行介助○視覚障害者の歩行の介助
- 8.食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護
 - (1) 食事に関する基礎知識

○食事のもつ意味、○食事の生理的な仕組

(2) 食事の介護

○食事介護のポイント

9.入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護

(1) 入浴、清潔保持に関連した基礎知識

○入浴のもつ意味○清潔保持の意味○清潔保持のための行動の仕組み

(2) 入浴の介護

10.排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護

(1) 排泄に関する基礎知識

○排泄の介護のもつ意味○排泄の仕組み

(2) 排泄の介護

11.睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護

(1) 睡眠に関する基礎知識

○睡眠の意味○睡眠の仕組み○睡眠の状態と睡眠障害の原因把握○安眠への支援

(2) 睡眠の介護

○寝具の整え方のもつ意味○寝具の整え方の介護

12.死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護

(1) 終末期ケアに関する基礎知識

○終末期ケアとは○終末期の心身の変化と対応

(2) 終末期ケア

○緩和ケア○家族へのケア

*「Ⅱ.生活支援技術の学習」においては、総時間の概ね5～6割を技術演習に充てることとし、その他の時間は、個々の技術に関連したところとからだのしくみ等の根拠の学習及び技術について講義等に充てること。

<Ⅲ.生活支援技術演習・・・10～12時間>

13.介護過程の基礎的理解

(1) 介護過程の基礎的理解

○介護過程の目的と意義○介護過程の展開○介護過程とチームアプローチ

(2) 介護過程の展開

14.総合生活支援技術演習

生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れと技術の習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の習得を目指す。

○事例の提示・・・ところとからだの力が発揮できない要因の分析・・・適切な支援技術の検討・・・支援技術演習・・・支援技術の課題（1事例1.5時間程度で上のサイクルを実施する）、○事例は高齢者（要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から2事例を選択して実施

○要介護2 脳梗塞 右麻痺○要支援2 脳梗塞 うつ病

*本科目の6～11の内容においても「14.総合生活支援技術演習」で選択する高齢者の2事例と同じ事例を共通して用い、その支援技術を適用する考え方の理解と技術の習得を促すことが望ましい。

*本科目の6～11の内容における各技術の演習及び「14.総合生活支援技術演習」において、一連の演習を通じて受講者の技術度合いの評価(介護技術を適用する各手順のチェックリスト形式による確認等)を行うことが望ましい。

10. 振り返り(4時間)

(1) 到達目標・評価の基準

ね ら い	・研修全体を振り返り、本研修を通して学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図る。
-------------	--

(2) 内容例

指 導 の 視 点	<ul style="list-style-type: none">・在宅、施設の何れの場合であっても、「利用者の生活の拠点に共に居る」という認識を持って、その状態における模擬演習(身だしなみ、言葉遣い、反対の態度等の礼節を含む。)を行い、業務における基本的態度の視点を持って介護を行えるよう理解できるようにする。・研修を通して学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で受講者自身に表出・言語化させたいので、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再認識できるようにする。・終了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身につけるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるようにする。・最新知識の付与と、次のステップ(職場環境への早期適応等)へ向けての課題を受講者が認識できるようにする。・介護職の仕事内容や働く現場、事業者等における研修の実例等について、具体的なイメージを持たせるような教材の工夫、活用が望ましい。(視聴覚教材、現場職員の体験談、サービス事業所における受講者の選択による実習・見学等)
内 容	<p>1.振り返り</p> <ul style="list-style-type: none">○研修を通して学んだこと、○今後継続して学ぶべきこと、○根拠に基づく介護についての要点(利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等) <p>2.就業への備えと研修終了後における継続的な研修</p> <ul style="list-style-type: none">○継続的に学ぶべきこと、○研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業者等における実例を紹介